

2018年3月期 第2四半期決算説明資料

2017年11月9日

ディスクレーム

この資料に記載されている内容のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定・算出されたものであり、当社を取り巻く経済情勢の変化や研究開発の進捗状況、証券市場規模の変化等の様々なリスクや不確定要因を内包するものであって、現実の業績は、それらの要因により当社の予測数値と異なる可能性があります事をご了承ください。

ご注意:この資料は投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、投資家ご自身の判断で行なうようお願いいたします。

目次

1

ビジネスハイライト

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

2

2018年3月期第2四半期 連結業績

執行役副社長CFO Andrew Oakley (アンドリュー・オークリー)

3

ビジネス戦略・事業アップデート

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

4

Q&A

オペレーション及び経営戦略上の重要な進捗を複数実現

- 当社の構造ベースドラッグデザイン（SBDD）の有用性を確認：GPCR関連提携パイプラインは、現在まで臨床試験における中止例も無く、良好に進捗
- 提携パートナーの研究開発の進捗により、複数社から開発マイルストーンを受領（Allergan M₄、Teva CGRP、AstraZeneca A_{2A}）
- MiNA社への戦略的な投資により、将来性の高いRNA治療薬領域に参入：Boehringer Ingelheim社との提携は、MiNA社が有するsaRNA技術の高い可能性を立証
- G7 Therapeutics社（現・Heptares Zurich社）の統合が完了。同社の買収が、StaR®技術を活用した年間のGPCR構造解析能力の大幅な向上に貢献
- GPCRを標的とした自社パイプライン拡充を加速させることができるStaR®技術への投資。2018年以降、毎年最大3品目の新規医薬候補品の第I相臨床試験（Ph1）入りを目指す
- Heptares社共同創設者であるRichard Henderson博士が2017年ノーベル化学賞を受賞。同氏の研究成果であるCryo-EM研究は当社のSBDDアプローチに活用中
- Allergan社とのグローバルでの提携契約の一部を改定し、新規ムスカリンM₁受容体作動薬のDLB¹を適応とした日本国内での開発・販売権を獲得：重要なアンメットメディカルニーズである認知症疾患領域において、日本国内における初めての自社販売を行う新規医薬候補品を獲得

StaR®技術及びSBDDは、GPCRを標的とした医薬品の研究・開発における当社のグローバルリーダーとしての地位を確立
日本発のグローバルバイオテック企業のリーディングカンパニー “を築く

¹ Dementia with Lewy Bodies: レビー小体型認知症

目次

1

ビジネスハイライト

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

2

2018年3月期第2四半期 連結業績

執行役副社長CFO Andrew Oakley (アンドリュー・オークリー)

3

ビジネス戦略・事業アップデート

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

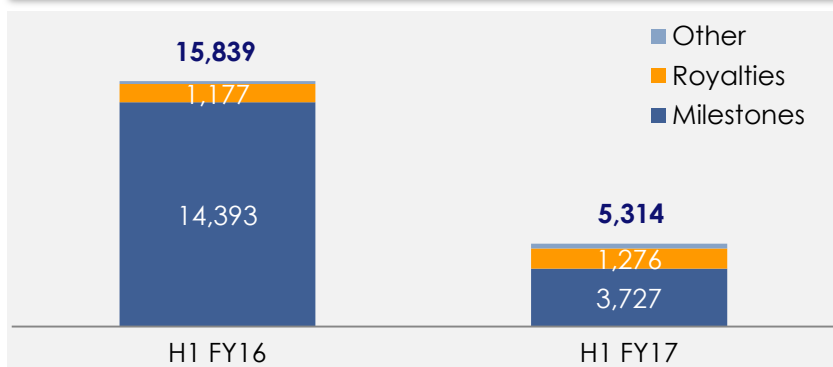
4

Q&A

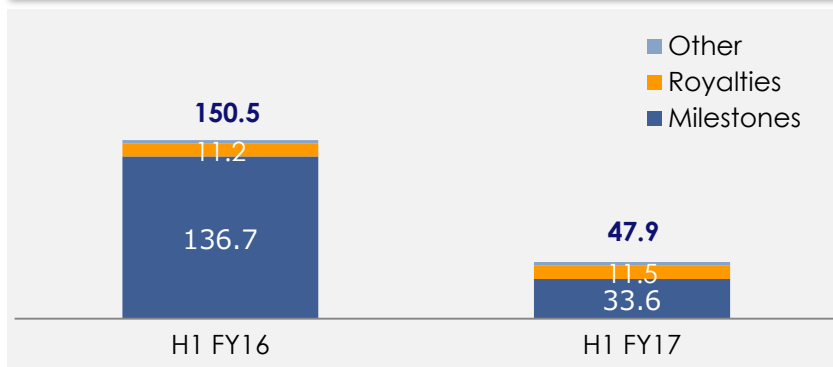
16年度のAllergan社からの契約一時金マイルストーン収入が主要相違要因

売上収益

百万円



百万ドル



コメント

M_R
プログラム

- ムスカリン・プログラム: 契約一時金マイルストーン収益125百万ドル (2016年度)

M₄SZ

- M₄プログラム: 第 I 相臨床試験における健康人への最初の投与に伴うマイルストーン収入15百万ドル

A_{2A}

- A_{2A}プログラム: 前臨床試験の良好な結果に伴うAstraZeneca社からのマイルストーン12百万ドル

CGRP

- CGRP: Teva社のオプション行使による収益5百万ドル

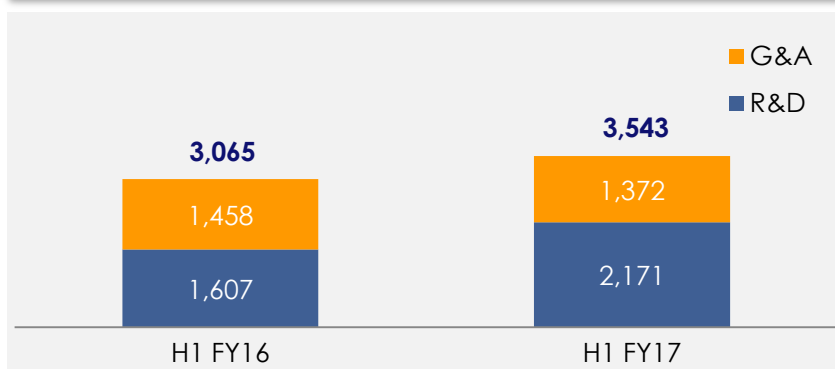
COPD

- COPD: Novartis社からのロイヤリティ収入は拡大 (前年同期対比)

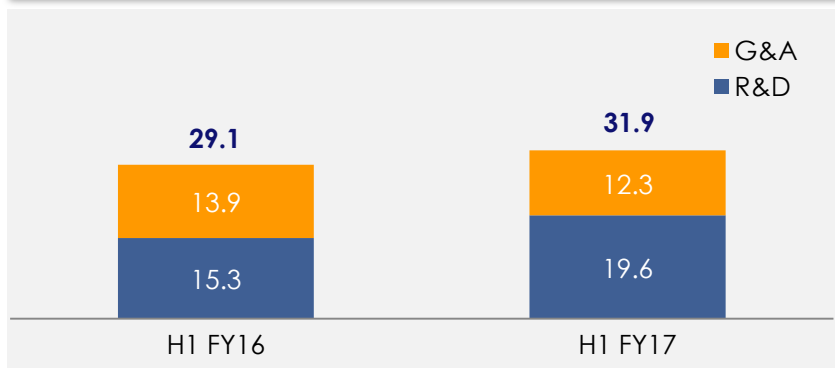
Cash Operating Expenseは GPCR関連自社パイプラインの開発進捗に関連した投資に連動

Cash Operating Expense

百万円



百万ドル



コメント

研究開発費 (R&D)

- 提携プログラムの後継品研究開発に係る投資費用
- GPCR関連自社パイプラインへの投資費用
- 日本国内におけるDLB¹プログラムに関する初期費用
- JITSUBO社及びアクティバスファーマ社の非連結化

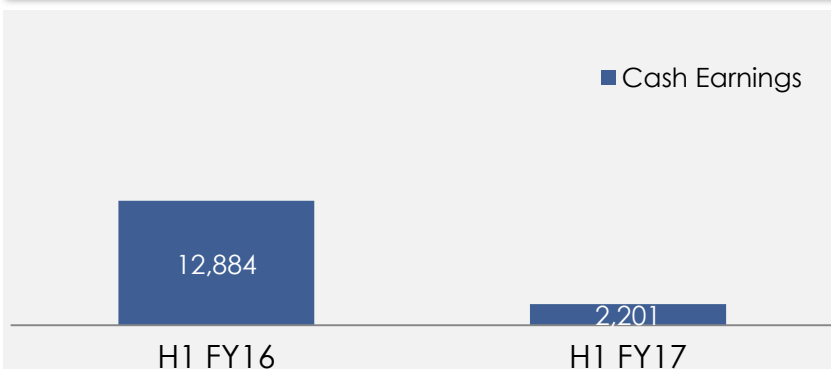
一般管理費 (G&A)

- Allergan社との提携に関するアドバイザリー費用（2016年度）
- オペレーション力向上を支えるコーポレート機能の強化
- 重要ポジションにおける人材確保

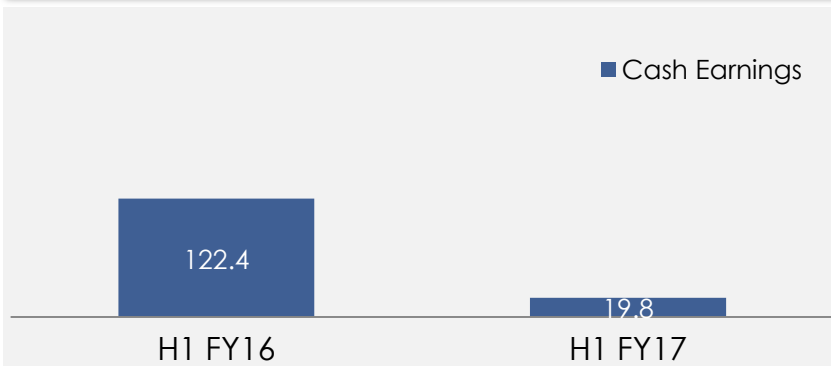
Cash Earnings¹

Cash Earnings¹

百万円



百万ドル



コメント

売上収益

- 2016年度のAllergan社からの125百万米ドルの契約一時金、マイルストーン収入が主要な相違要因
- 提携プログラムの開発進捗により、マイルストンの受領(Allergan M4, Teva CGRP, AstraZeneca A2A)
- Seebri®/Ultibro®の売上に係るロイヤリティ収入の増加

Cash Opex

- Allergan社との提携に伴うアドバイザー費用（2016年度）
- 提携/自社開発パイプラインへの投資費用
- JITSUBO社及びアクティバスファーマ社の非連結化
- オペレーション力向上を支えるコーポレート機能の強化費

¹ Cash Earnings = 売上収益 – Cash Opex
Opex: Operating Expenditure

Allergan社からの契約一時金マイルストーン収入が主要相違要因

損益計算書(主要項目)

	円		ドル		コメント
	H1 FY17 百万円	H1 FY16 百万円	H1 FY17 百万ドル	H1 FY16 百万ドル	
2017年9月					
売上収益	5,314	15,839	47.9	150.5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Non Cash費用：ストックオプション発行額及びG7 Therapeuticsの買収に係る無形資産償却費の増加 ➤ 為替: Brexitによるポンドの下落に伴い2016年度はプラスの利益貢献があった一方、2017年度はマイナスに利益貢献 ➤ 条件付対価： <ul style="list-style-type: none"> • Heptares社買収時の条件付対価の支払 • Allergan社からの125百万米ドルの契約一時金マイルストーン受領に係る費用 • 費用は会計上発生している費用であり、事業の業績等とは必ずしも整合するものではありません ➤ 英国における税効果による税金収益
その他の収益	429	110	3.9	1.0	
Cash Opex	3,543	3,065	31.9	29.1	
Cash Earnings ¹	2,201	12,884	19.8	122.4	
Non Cash 費用	757	661	6.8	6.3	
金利・為替及び 条件付対価費用	1,743	(1,023)	15.7	(9.7)	
持分法投資損益及び 少数株主利益	235	(124)	2.1	(1.2)	
法人所得税費用	(37)	2,653	(0.3)	25.2	
当期純利益	(498)	10,717	(4.5)	101.8	

パイプラインの卓越した進捗を導く投資及び規模の拡充を継続

2017年度業績見通し（2018年3月期）

売上収益

- ▶ バイオテック・ビジネスモデル：売上収益はマイルストーン収入に依存。受領タイミングの予想は困難
- ▶ Seebri™Neohaler®/Utibron™Neohaler®の米国での販売を開始¹

Cash Opex

- ▶ R&D Cash Opex: 50 ~ 55百万米ドル（56億円 ~ 62億円）
- ▶ G&A Cash Opex: 20 ~ 25百万ドル（23億円 ~ 28億円）

Cash Earnings²

- ▶ 2017年度のCash Earnings² はブレークイーブン近傍となる見込み

2018年度から12月期決算へ移行

目次

1

ビジネスハイライト

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

2

2018年3月期第2四半期 連結業績

執行役副社長CFO Andrew Oakley (アンドリュー・オークリー)

3

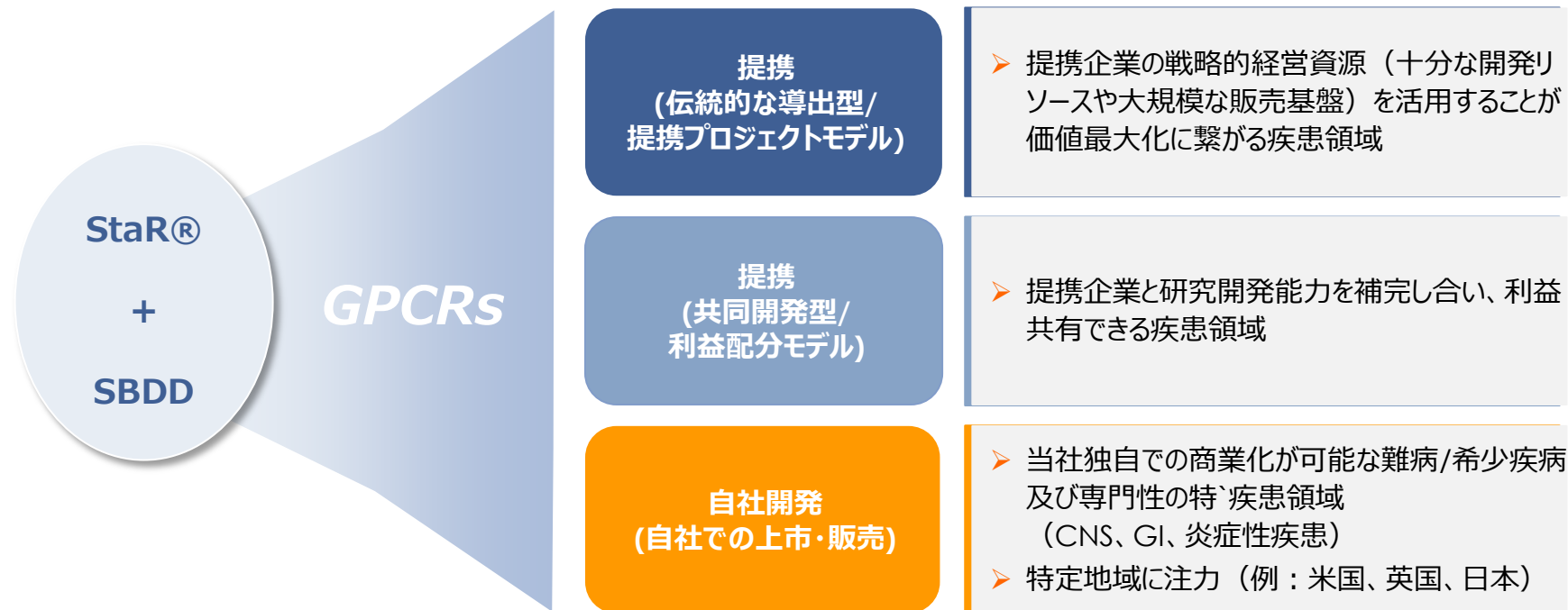
ビジネス戦略・事業アップデート

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

4

Q&A

経営資源の最適な配分を実現する戦略的フレームワーク 価値最大化の最適な実現に向けて



特定の疾患領域、地域における自社による商業化実現という最終目的に鑑みつつも、各医薬品毎の特性に合わせた最適な戦略を実践

当社は日本国内におけるレビー小体型認知症（DLB）を対症としたHTL0018318の臨床開発を実施する予定

2016年にAllergan社と締結した提携の改定内容並びに狙い

- レビー小体型認知症の新規治療薬候補として、新規ムスカリンM1受容体作動薬HTL0018318を日本で開発・販売する権利の取得
- 2018年にHTL0018318単剤でのPh2 POC¹試験を日本で開始
 - HTL0018318は、Ph2 POC試験後、P2b/3試験²を進め、日本国内における製造販売承認申請並びに上市を目指す
- HTL0018318の臨床試験では、アルツハイマー型認知症・レビー小体型認知症の臨床試験を並行して実施可能
- レビー小体型認知症は、認知症患者の中でアルツハイマー型認知症に次いで2番目に患者数が多く、日本（並びに世界）において重要な健康問題
- 日本国内における新規ムスカリンM₁受容体作動薬は高い上市可能性及び商業性を有する
 - 当社が有するレビー小体型認知症治療薬開発における知見、日本国内における製品開発の経験及び実績を最大限に活用可能
 - 成長戦略の鍵となる要素を充足：株主価値の維持・向上につながる市場規模を有しつつ、大規模な販売部隊を必要としない専門医による処方を中心とした適応
- Allergan社は、HTL0018318のレビー小体型認知症を摘要としたグローバルにおける開発・販売権を得るオプションを留保

高い上市可能性及び商業性を有する新規ムスカリンM1受容体作動薬の日本国内での開発・販売する権利の獲得は当社の成長戦略とも合致しており、日本が抱える重要な健康問題である認知症対策に挑戦する当社のコミットメント

¹ 第Ⅱ相臨床試験における概念実証試験。POCIは、Proof of Concept（概念実証）の略語

² 後期第Ⅱ相臨床試験

レビー小体型認知症（DLB）とは？

新しい治療アプローチが求められる重大なアンメットメディカルニーズ

DLBの概要

- DLBは、高齢者における認知症において2番目に大きな分類であり、日本国内における3大認知症タイプのひとつ
- 認知機能の変動、神経精神的症状（幻視等）及びパーキンソンズムに特徴付けられる、進行性の神経変性疾患
- 近年の診断技術の進化により、レビー小体型認知症に対する認知が高まり、新規治療法の探索・開発機会が増加：DLBにおけるアリセプト®の前例
- 認知症対策は、日本における社会的・政治的な優先課題

患者人口

- 国内患者数約92万人（約460万人²の認知症患者のうちの約20%¹）
- 米国にも多くのDLB患者が存在³

重大なアンメットメディカルニーズ

- 日本国内では、2014年⁴にアリセプト®が唯一の治療薬として承認を取得
- 欧米では、承認された治療薬は無し

コリン作動性欠損

- コリン作動性神経の脱落はDLB患者に顕著な特徴
- アルツハイマー型認知症患者に比べて、DLB患者ではコリン作動性神経伝達の不全が著しい

DLBにおける新規ムスカリンM1受容体作動薬の可能性

- DLB患者は“シナプス後ニューロン”（及びムスカリン受容体）を保持
- ムスカリンM₁受容体作動薬による“シナプス後ニューロン”の活性化はDLB症状の悪化に伴い、減少するアセチルコリン量の制御に依存せずに作用する
- “シナプス後ニューロン”受容体を活性化するムスカリンM₁受容体作動薬は、DLB等の神経変性疾患の治療に大きな可能性をもたらす

¹ Eisai press release, April 2015

² <https://www.alz.org/jp/dementia-alzheimers-japan.asp>

³ <https://www.lbda.org/content/incidence-lewy-body-dementias-general-population>

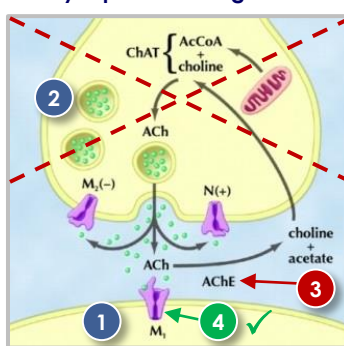
⁴ Japan PDMA review process ongoing

HTL0018318はDLBを対症としたファースト・イン・クラスの製品となる可能性を持つ 選択的ムスカリンM₁受容体作動薬

HTL0018318ムスカリン受容体作動薬のDLBに対する治療メカニズムの概要

- Eli Lillyのxanomelineに関する臨床試験により、M₁受容体の活性は認知機能の改善に繋がることが判明¹
- 但し、xanomelineはM₂/M₃受容体も同時に活性化してしまう事により、循環器系及び消化器系の副作用を伴った為、開発を中止
- StaR®技術を活用したSBDDアプローチにより、当社はM₂ & M₃受容体を活性化しない医薬候補品を設計・開発
- HTL0018318はムスカリンM₁受容体への高い選択性を持つ強力な作動薬であり、M₂/M₃への選択性は極めて限定的

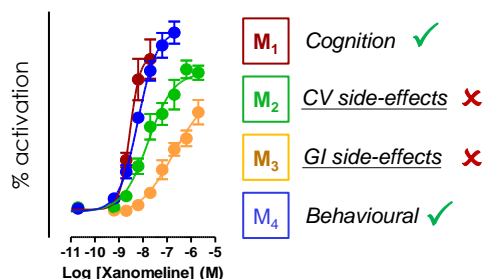
Pre synaptic cholinergic neuron



Post synaptic neuron

- 1 大脳皮質及び海馬内のM₁受容体はアセチルコリン (ACh) の認知作用において重要
- 2 認知症患者におけるコリン作動性ニューロンの減少は認知機能の低下を引き起こす
- 3 アセチルコリンエステラーゼ (AChE) 阻害剤 (例: Aricept) はAChの分解を抑制
 - 但し、上述アプローチの効果は、副作用の観点からの用量制限、及び疾患としての内因性AChの減少により限定的
- 4 M₁作動薬はアセチルコリン量に依存せずにM₁受容体を活性化
 - StaR®及びSBDDから導かれたHTL0018318はドネペジル対比優位な効能及び安全性を確保

xanomeline¹



HTL0018318

M₁ Cognition ✓

HTL0018318は
ムスカリンM₁受容体への高い
選択性を持つ作動薬

HTL0018318は標準療法と異なるメカニズムを有し、
DLB患者に対し、最適な対症的效果をもたらすポテンシャルを持つ

提携プログラムの開発進捗状況







プログラム	パートナー	領域	適応	過去6ヶ月の進捗状況	
Partnered pipeline					
NEW M ₁ AD	 Allergan	CNS	アルツハイマー型認知症	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アルツハイマー型認知症患者を対象にした選択的M₁受容体作動薬のPh1bを開始 ➤ HTL0018318は他の物質候補群に比べて良好なプロファイル 	
M ₄ SZ	 Allergan	CNS	アルツハイマー型認知症に伴う行動異常	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ファースト・イン・クラスの選択的M₄受容体作動薬であるHTL0016878のPh1において健康人への初投与を実施 ➤ 上記にともなうマイルストーン収入15百万ドルを受領 	
NEW A _{2A}	 AstraZeneca	がん	がん免疫 (固形がん)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ AD4635のPh.1の進捗は良好。年内にP1bへの移行を予定¹ ➤ 現在単剤療法及びAstraZenecaのIMFINZI™ (durvalumab)との併用療法のPh.1臨床試験を実施中 	
CGRP	 TEVA	CNS	片頭痛	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 2017年第2四半期に厳格な選考プロセスを経て選ばれた前臨床段階の候補薬をPh1に移行することを目指す 	
NEW 	 Pfizer		複数の標的 (低分子/抗体)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 提携以降、11のマイルストーンを達成 (StaR®による対象GPCRの安定化、X線による構造解析、リード化合物の提供)。加えて新たな知的財産も取得 	
NEW 	 MiNA Therapeutics  Boehringer Ingelheim	肝臓	複数の標的 (saRNA) 線維性肝疾患	<ul style="list-style-type: none"> ➤ MiNA社は線維性肝疾患の新治療法の開発を目的とした、提携契約・ライセンス契約をBoehringer Ingelheim社と締結 ➤ MiNA社は契約一時金や研究開発資金並びに、マイルストーンで最大307百万ユーロを受領する予定 	

¹ 2017年末までに複数のがん種を対象としたIMFINZI™との併用及び単剤療法のPh1b拡張コホート試験を計画中

² 当社はMiNAの25.6%議決権株式及び残りの全株式を事前に合意した価格で追加取得する権利を保有

³ MiNAは共同研究開発により、開発された特定の医薬品は販売高に応じた二桁パーセントのロイヤリティを受領する権利

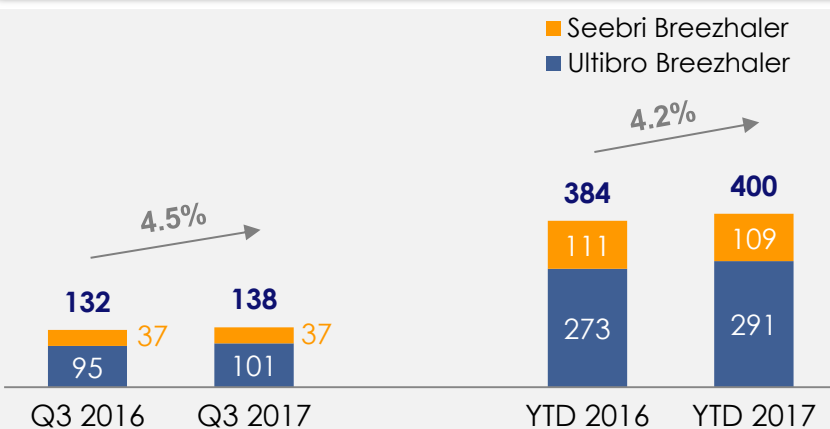
自社開発パイプラインの著しい進捗 難病・希少疾病及び専門性の特殊な疾患領域並びに特定地域に注力

プログラム	パートナー	領域	適応	過去6ヶ月の進捗状況
自社開発パイプライン				
 M₁ DLB		CNS	レビー小体型認知症 (DLB)	<ul style="list-style-type: none"> 新規ムスカリンM₁受容体作動薬HTL0018318の日本におけるDLBを適応症とした開発・販売権を獲得 2018年中にPh2a POC試験（単剤投与）を開始予定 HTL0018318は、Ph2 POC試験後、P2b/3試験の実施を通じて、日本国内における製造販売承認申請並びに上市を目指す 
 mGlu₅		CNS	神経系疾患	<ul style="list-style-type: none"> 前臨床試験の進捗良好。CNS疾患に対するmGlu₅ NAMプログラムはベスト・イン・クラスのポテンシャルを有する 最も進んでいる既存臨床薬に対して、10倍以上の薬理活性を有する 高いアンメット・メディカル・ニーズと市場性の高い複数の神経系疾患領域での有効性を確認済み Ph1臨床試験を2018年内に開始予定 

呼吸器疾患治療薬であるSeebri®/Ultibro®からの良好なロイヤリティ収入

Novartis社の第3四半期及びYTDの製品別売上高（除く米国）

百万ドル



コメント¹

- ▶ 第3四半期においてUltibro® はLAMA/LABA剤におけるリーディング・ポジションを確保（米国外においての50%以上のシェアを確保）
- ▶ Ultibro® の第3四半期純売上高は欧州外地域における短期的な在庫調整の正常化により前年同期対比6%上昇
- ▶ 売上の過半を占める欧州においてUltibro® は、競合が激化する環境下、ドイツ、フランスによる好調な販売動向を受けて前年同期対比+18%の売上増を達成
- ▶ Sunovion社によるUltibro™ 及び Seebri™ のSunovion社における米国での上市は更なるアップサイドとなる可能性

Product/Program	Indication	Partner	Discovery	Preclinical	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Market
その他提携パイプライン（伝統的導出モデル）								
Seebri®/Ultibro®	COPD	NOVARTIS	[Progress bar]					
QVM 149	Asthma	NOVARTIS	[Progress bar]					

Ultibro® は欧州における好調な業績を通じLAMA/LABA配合剤における50%（米国外）のシェアを持つリーディング・ポジションを確保
 Sunovion社による米国上市²は更なるアップサイドとなる可能性

MiNA¹ 社によるBI社との契約はsaRNAの可能性を強くサポート

<p>saRNAにおける リーディング・ポジション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ MiNA¹社の saRNA治療におけるリーディング・ポジションを裏付け ➤ MiNA¹社のsaRNA技術を活用したリード開発品であるCEBPAは現在Ph1/2a 臨床試験を実施中
<p>saRNA技術に対する更なる バリデーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ saRNA技術に対する更なるバリデーションの取得、プラットフォーム技術の開発加速を促す施策は当社にとって大きなアップサイド
<p>開発能力、余力の拡張及び パイプラインの拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 当社によるMiNA社への追加的な戦略的投資に先立ち、MiNA社は開発能力等の拡充につながる施策を柔軟に実施可能
<p>更なる非希薄化ファイナンス の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 契約一時金や研究開発資金並びに研究開発・レギュラトリーマイルストーンとして、最大307百万ユーロを受領予定 ➤ 提携を通じて開発した特定の医薬品に関して、販売高に応じた二桁パーセントのロイヤリティを受領予定

製品/プログラム	モダリティ	適応	パートナー	Discovery	Preclinical	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Market
saRNAにおける提携パイプライン (伝統的導出モデル)									
Multiple targets	RNA	複数の適応							
saRNAにおける自社開発パイプライン(自社での上市・販売)									
MTL-CEBPA	RNA	肝臓がん							
MTL-CEBPA	RNA	複数の適応							
MTL-Other	RNA	複数の適応							

: 開発段階
 : 12-15ヶ月後の見通し

MiNAは 線維性肝疾患領域における世界的リーダーであるBI社と線維性肝疾患の新治療法及びCEBPAによる肝臓がんの急性治療法の共同開発を実施

¹ 当社はMiNAの25.6%議決権株式及び残りの全株式を事前に合意した価格で追加取得する権利を保有

目次

1

ビジネスハイライト

代表執行役社長CEO Peter Bains (ピーター・ベインズ)

2

2018年3月期第2四半期 連結業績

執行役副社長CFO Andrew Oakley (アンドリュー・オークリー)

3

戦略及びオペレーションアップデート












Peter Bains, CEO

4

Q&A

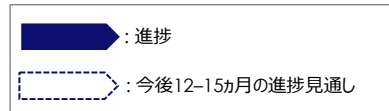
Appendix










バイオ産業における日本発のグローバルリーディングカンパニーを目指して

<p>GPCR分野における グローバルリーダー</p>	<ul style="list-style-type: none"> GPCRを標的とした医薬品の設計を通じて、莫大な未開拓の疾病治療薬を開発 
<p>特許により保護された当社独自のStaR®技術及びSBDDプラットフォーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 当社の独創的且つ拡充性の高いStaR®技術を活用した構造ベースドラッグデザインアプローチは、失敗確度の低いパイプライン群の構築を可能とする
<p>経営資源の 最適な投下戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> 特定の適応（例：難病/希少疾患）について、特定の地域（米国、英国及び日本）における、市場進出／提携企業とのプロフィットシェア等の機会の戦略的展開に注力  
<p>複数の疾患領域における 製薬会社との提携構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> 神経性疾患、がん免疫療法及びその他の疾患領域における内外製薬企業との多数の提携パイプラインは、当社技術の有効性を裏付け 上市した製品の販売に応じて得られるロイヤリティ収入に加えて、現在開発を進める提携パイプラインの進捗や上市に応じて受領するマイルストーン収入の総額は60億米ドルを超える      
<p>GPCR関連自社 パイプラインの 積極的な拡充開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今後はGPCR関連自社パイプラインの研究開発から上市までを加速。2018年以降、毎年最大3つの医薬候補品のPh1入りを目指す  

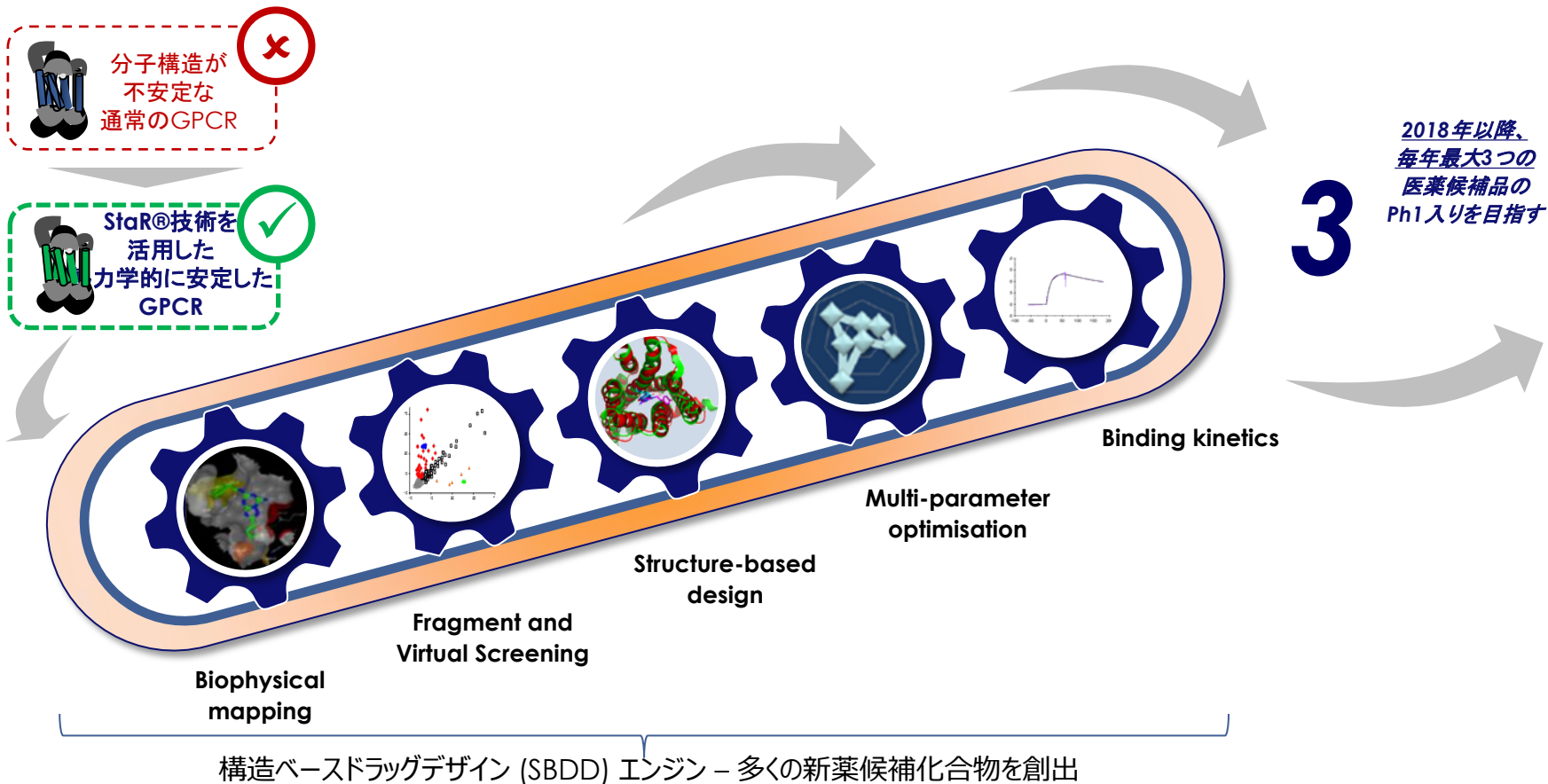
上記に加え、Seebri®及びUltibro®の販売から得られる安定したロイヤリティ収入と、当社のRNA治療領域を得意とするMiNA Therapeuticsを通じて成長を実現

GPCR分野におけるグローバルリーダー リスクが分散されたバランスの取れたパイプライン群



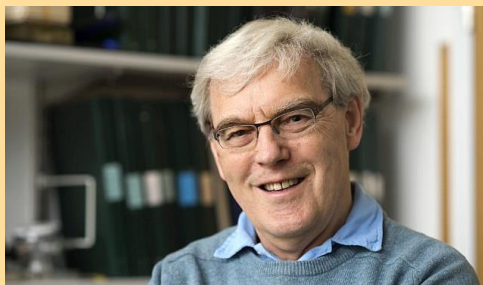
製品/プログラム	モダリティ	適応	パートナー	Discovery	Preclinical	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Market		
提携パイプライン (伝統的な導出型モデル/共同研究プロジェクト) (以前の“Wave 1”パイプライン)											
M ₁ 受容体作動薬	SME	AD/Sz Cognition	 Allergan	[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
M ₄ 受容体作動薬	SME	AD/Sz Psychosis	 Allergan	[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
M ₁ /M ₄ デュアル作動薬	SME	AD/Sz Psych. /Cog.	 Allergan	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
アデノシン受容体A _{2A} 拮抗薬	SME	がん	 AstraZeneca	[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
CGRP受容体拮抗薬	SME	片頭痛	 TEVA	[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
非開示	SME	疼痛	 Daiichi-Sankyo	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
複数	SME/mAb	複数の適応	 Pfizer	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
非開示	SME	非開示	 morphosys	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
提携パイプライン (共同開発/利益配分モデル)											
非開示	PEP	炎症性疾患	 kymab	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
複数	mAb	がん免疫療法	 kymab	[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
自社パイプライン (自社での上市・販売) (以前の“Wave 2”パイプライン)											
M ₁ 受容体作動薬	SME	DLB (日本)		[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
mGlu ₅ NAM	SME	神経性疾患		[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
Molecule 1	SME	非開示		[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
Molecule 2	SME	非開示		[Progress bar from Discovery to Phase 2]							
Molecule 3	SME	非開示		[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
Molecule 4	SME	非開示		[Progress bar from Discovery to Phase 1]							
Molecule 5	SME	非開示		[Progress bar from Discovery to Phase 1]							

StaR®技術を活用したSBDDアプローチは厚みのあるパイプライン群を構築中 独創的且つ拡張可能な技術プラットフォーム



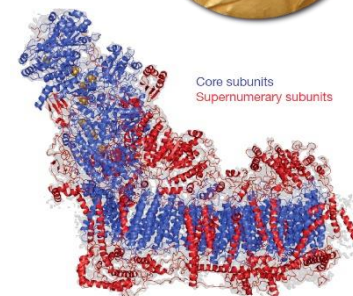
当社独自のStaR®技術はSBDDアプローチによる多様な新薬候補化合物の創出を可能にしている
2018年以降、毎年最大3つの医薬候補品のPh 1入りを目指す

Heptares社共同創設者であるRichard Henderson博士 (2017年ノーベル化学賞受賞) からのメッセージ



Dr. Richard Henderson

- Born 1945 in Edinburgh, Scotland.
- Ph.D. 1969, Cambridge University, UK.
- Programme Leader, MRC Laboratory of Molecular Biology, Cambridge, UK
- Co-founder of Heptares Therapeutics

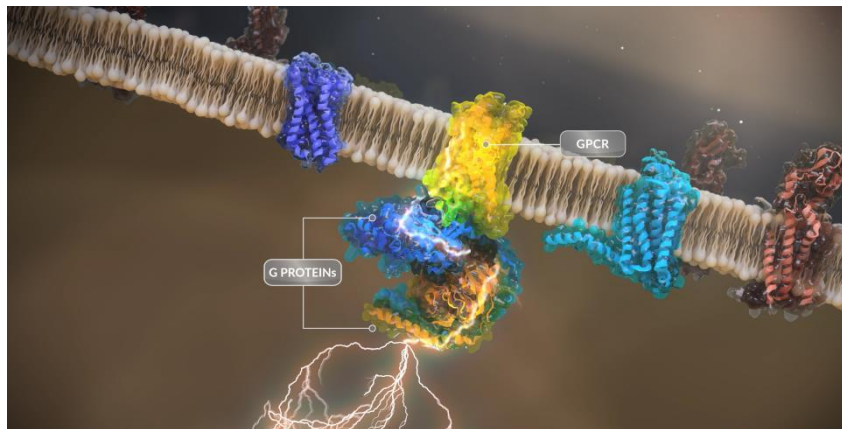


"I am proud to have co-founded Sosei's subsidiary Heptares where I continue to act as a scientific advisor to the company – a leader in GPCR medicine design and development. My work in the area of cryo-EM, for which I was jointly awarded the 2017 Nobel Prize in Chemistry, is a pioneering area of structural biology. Cryo-EM can reveal the structure of complex molecular assemblies to near atomic level. Together with the MRC Laboratory, where I am programme leader, Heptares is applying the techniques of cryo-EM to advance the discovery of new GPCR medicines. I look forward to speaking to Sosei shareholders in March 2018."

– Dr. Richard Henderson, Co-founder of Sosei's subsidiary Heptares Therapeutics

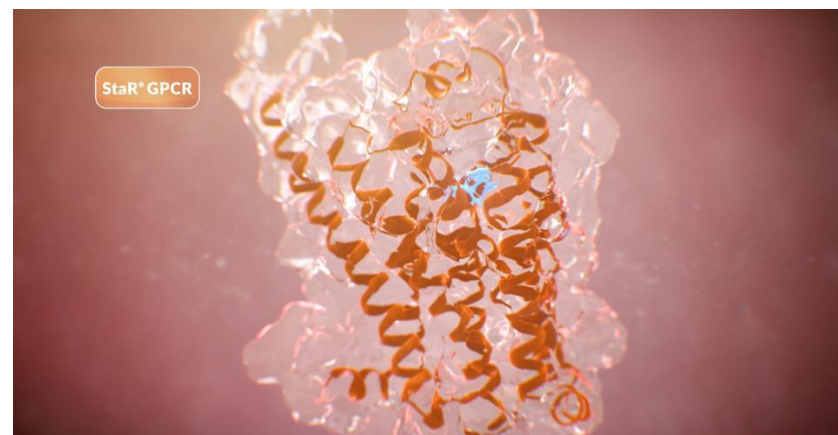
Richard Henderson博士のノーベル化学賞受賞を記念して、同氏を基調講演者として招待し、
当社の株主の皆様を対象としたイベントを2018年3月に東京にて開催する予定
詳細については、今後当社のIRウェブサイトにてご案内する予定（2018年初掲載予定）

当社のStaR®技術並びに構造ベースドラッグデザイン（SBDD）の紹介映像をご覧ください



英語映像リンク:

https://www.youtube.com/watch?v=3lcoweP_z4M



日本語映像リンク:

<https://www.youtube.com/watch?v=E4KCDIzfdzg>

StaR®技術及びSBDDは、GPCRを標的とした医薬品の創薬・開発における当社のグローバルリーダーとしての地位を確立
日本発のグローバルバイオテック企業のリーディングカンパニー “を築く